

取組の企画を具体化しよう！



第5回のWSでは、第4回の内容に引き続いてチームごとにアイデアの創出、視点を整理しながら、より具体的な取組の内容を考えました。その他にも、同日に新庄をフィールドとして行われていた東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科主催のイベント、「SUMMER IDEA CAMP」に参加する大学生や高校生も一時参加し、ワークショップの参加者のみなさんに新庄の魅力やチームで考えている活動アイデアを質問する場面もありました。

第5回ワークショップレクチャー プレゼンテーションとは？

プレゼンテーションは「贈り物」です。自分の意見を明確に伝える「スピーチ」とは異なり、プレゼンテーションは「プレゼント」が語源であることから、『聞き手に自分たちの想いを贈る』ことが最も大切です。また、『聞き手の意識や行動を変容させること』も素晴らしいプレゼンテーションであるとされています。そのためには、言葉だけではなく、表情や視線、態度などで示すことも重要です。第6回での発表時間は各チーム7分と短いですが、その中にすべての内容を盛り込む必要はありません。聞き手が「もっと話を聞きたい」と興味を持ってもらえたら大成功です。まずは発表者が楽しそうに発表すること、それが素晴らしいプレゼンテーションへの第1歩です。

プレゼンテーション 4つの極意

- 1 プレゼンテーションは「贈り物」
- 2 聞き手とつながること
- 3 聞き手を変容させること
- 4 質問が出てきたら大成功

参加者の感想 (アンケートより抜粋)

幅広い世代の方と話し合えたからこそ新しいアイデアが生まれた/根本的な部分をさらに掘り下げながら企画を考えたい/インプットしないと、アウトプットができないと感じた/新庄市を良くしたいという想いがアイデアの発生源になっているのだと思う/個の持つパワーとグループが持つパワーを体感した時間だった/やりたいことを実現させるために考えられるイケイケなワークショップ/実現できるものを吟味して、本当に実現させたい/発表会に向

けてどのように企画をまとめるかがまだイメージできないが、おもしろい企画を提案したい/3,4回休んでしまったが、チームのみんなが分かりやすく教えてくれて問題なく参加でき感謝/段々と内容が難しくなり、以前より笑顔が少なくなった/ポジティブな方が多く参加しているワークショップだと思った/発表を楽しめるようにチーム作りをがんばりたい/市職員の方々の熱心な進行などに頭が下がる/発表会が楽しみ！

次回は最終回！
発表会にみんなを招待しよう！

ご案内 「第6回新庄未来ワークショップ」
日時：2019年9月11日(水)
18:30～20:45
場所：新庄市民プラザ

お問い合わせ
新庄市総合政策課 企画政策室
tel.0233-22-2115

新庄未来 ワークショップ

2019年7月31日(水) 18:30～20:45
8月7日(水) 18:30～20:45
新庄市民プラザ1階大ホール

Vol.4・5



新庄市では、人口減少、少子高齢化が今後さらに進む中でも、この地域で持続可能で豊かな暮らしをしていくために、2021年度からのまちづくりの指針となる「新庄市総合計画」を策定します。7月31日、8月7日に行われたワークショップでは、両日38名の市民が参加し、新庄市を盛り上げる活動アイデアを話し合いました。

前回までの振り返り



studio-L 昆野哲さん

第3回のワークショップでは、第1回～第2回のワークショップで出た意見や市の行政課題をもとに設定された7テーマについて、10チームに分かれて各テーマの魅力や課題、将来像を共有し、チームごとに今後特に力を入れて話し合う内容の方向性を検討しました。第4回、第5回のワークショップでは、これまでの話し合いをもとに、地域の課題を解決できる具体的な活動アイデアを創出していきます。そのためには、他の自治体や地域が何をしているのかを調べて“事例のインプット”をすることが大切だとアドバイザーの醍醐さんからも話がありました。今日はみんなで調べてきた事例の共有からはじめていきます。9月11日はついに発表会です。最後まで頑張ってください！

このワークショップの進め方

新庄未来ワークショップは全6回で構成されており、第2回までは新庄市の現状や将来像を整理し、基本的な方向性(目標)をまとめていきました。第3回からは参加者が興味のあるテーマごとのチームに分かれて、新庄市の資源を活かし、課題を解決していくような具体的なアイデアを創出していきます。

今後のスケジュール
第1回：4月24日(水)
第2回：5月22日(水)
第3回：6月19日(水)
第4回：7月31日(水) 今回!
第5回：8月7日(水) 今回!
第6回：9月11日(水)

プログラム

第4回 7月31日(水)

- 開会、あいさつ
- 第3回の振り返り
- ワーク①「事例調べの共有」
- 座学「アイデアを生み出すコツ」
- ワーク②「活動アイデアを出し合おう」
- ワーク③「企画の視点を整理しよう」
- 発表、講評
- 閉会

第5回 8月7日(水)

- 開会、あいさつ
- 第4回の振り返り
- ワーク①「取組の企画を具体化しよう」
- 座学「プレゼンテーションとは」
- ワーク②「発表の方法や役割について考えよう」
- ワーク③「発表までの準備スケジュールを立てよう」
- 閉会

アイデアを生み出すコツ



アッと驚くような新しいアイデアは、決して空から降ってくるものではありません。アイデアを生み出し、良い企画を提案するにはいくつかのコツがあります。それは一体どういったものなのでしょうか？



1 活動アイデアを出し合おう

情報の引き出しを作る

アッと驚くような新しい企画を生み出すのに大切なのは情報量です。新しい取り組みはそれらの組み合わせから生まれています。そのため、私たちが必要なのは「事例を調べること」です。近年では地域活動の事例を集めた雑誌やWEBサイトも多くありますので参考にしてみましょう。

アイデアを増産する

アイデアを生み出すためには、まずは質より量が大切です。「Yes, and」で他の人のおもしろい意見に便乗しながら話をすれば、きっとおもしろいアイデアがたくさん生まれてくるでしょう。今回は「ブレインストーミング」というワークの手法でアイデアを創出しました。

アイデアをさらにおもしろくするために...

オズボーンチェックリスト

- 転用する 拡大する 置換する
- 応用する 縮小する 結合する
- 変更する 代用する 逆転する

事例1 転用する

転用する→ 新しい使い方はないか？
他の分野での使いみちはないか？



「青森ごぼう茶」主体：株式会社 Growth
地域：青森県三沢市大町
概要：大衆に親しまれていた規格外のごぼうをお茶に加工。手作業で手間をかけてつくることにより、付加価値を生み出す。

事例2 拡大する

拡大する→ 大きくできないか？
地域を広げられないか？ 関わる人の幅を広げられないか？



「ロワイヤル・ド・リュクス」地域：フランス
概要：1つのストーリーに沿って、巨大な動物や人間の人形が街を練り歩く。

事例3 置換する

置換する→ 順序を入れ替えられないか？
原因と結果を入れ替えられないか？



「とくいの銀行」頭取：深澤 孝史（美術家）
場所：茨城県取手市井野団地
概要：住民の「とくい」などを集め、交換できる仕組み。みんなの「とくい」を合わせてイベントも開催している。

事例4 変更する

変更する→ 見た目を変えられないか？
意味を変えられないか？



「ドライフードラボ」主体：一般社団法人Maru協会
概要：ドライフードの良さを現代風にアレンジしてPR。流通コストの低いドライフードを普及させることで、漁業の新しい可能性を追求している。

事例5 逆転する

逆転する→ 注文をまちがえる料理店



【間違える】→【人間らしい】【寛容さ】などにポジティブ変換
概要：ホールで働く従業員はみんな認知症の方々。
「ごっちゃんおもしろい。ま、いっか」。おらかな気分が広がる。

事例6 統合する

結合する→ 下北沢 B&B



【本屋：Book】×【お酒：Beer】
概要：「これからの街の本屋」を目指し、人と人が出あえる場づくり。
365日毎朝トークイベントなどを開催。お酒も飲める。

第4回ワークショップ

発表 7テーマ計10チームを代表して、4つのチームから発表がありました。

地域づくり②チーム

私たちは2つの企画を考えました。1つ目は防災をテーマにした「防災運動会」です。防災運動会には老若男女が参加でき、関連した競技を行いながら楽しく防災を学ぶことができます。実現にあたっては、はじめは町内会単位でモデル開催し、小さくはじめていきながら、徐々に規模を広げていきたいと思っています。2つ目は「公民館のゲストハウス化」です。ホームステイなどは受け入れ側の負担が大きくなってしまいますので、公民館をゲストハウス化して住民がそこに向くことで、お互いに気持ちの良い交流ができるのではないかと考えました。



産業②チーム

私たちは2つの企画を考えました。1つ目は「SNOW IS MONEY」です。豪雪地帯の特徴を生かし、雪対策事業として市民が処理した雪を行政が買い取るという企画です。行政は雪を買い取る分、市道の除雪を行いません。買った雪は人口雪を使用している場所に格安で提供します。雪が嫌で市街に引っ越す方も多いため、雪が儲かるとなれば逆に引っ越してくる人が増えるのではないのでしょうか？2つ目は「オーダーメイド商店街」です。商店街ごとにテーマや客層の住み分けができれば、活性化していくのではないかと考えました。



福祉チーム

福祉チームは「異業種芋煮会」を企画しています。この芋煮会は『福祉に関する情報が伝えるべき人に伝わっていないのではないか？』という問題意識から生まれたもので、芋煮会を通じて福祉にまだ関心のない人も巻き込みながら、福祉のまちづくりを推進しようとするものです。コンセプトは「情報交換」ですが、難しい話をして萎えてしまわないように、誰でも楽しく参加できる場にしていきたいです。芋煮会に限らず、鍋やとりもつラーメンなどのソウルフードを生かしながら、新庄らしさも意識していきたいと考えています。



生涯学習チーム

「ロゲイン」というオリエンテーリングのような、農村や食べ物、おもしろい新庄人などをテーマにしたまち歩きを企画しています。具体的なコンセプトなどはまだ決まっていますが、生涯学習の分野では自主性やつながりなどが大事だとされているので、これらをコンセプトに落とし込めたらと考えています。メインのターゲットは観光客ですが、企画を通して新庄市民がまちの魅力を再発見できるのではないかと思います。その他にも空き地、空き家を利活用してギャラリーや自作の図書室をつくるといった企画も考えています。



第4回ワークショップを終えて

講評 醍醐孝典さん



新庄のワークショップは毎回躍動感があり、とても楽しませてもらっています。このワークショップもいよいよ大詰め、ついに実際の活動アイデアを創出し、企画にまとめる段階になりました。第4回は代表して4つのチームに発表して頂きましたが、どのチームもおもしろい企画のタネばかりで、発表会が楽しみです。

「防災×運動会」の企画では、運動会の要素を分解してみると、お父さんがビデオを回している光景が浮かびます。運動会の開催と一緒にビデオ講座を開催するなどして、家族や地域の記録を残していくことなど、企画の要素を分解することで新しい視

点が生まれるかもしれません。

「SNOW IS MONEY」の企画では、「オーダーメイド商店街」の企画と組み合わせ、「地域通貨」を取り入れた商店街の活性化も考えられるのではないのでしょうか。

「異業種芋煮会」など、今年度からでも始められそうな企画もありました。発表会を企画の広報として使える可能性もありますね。ぜひ当日までに、各チーム楽しみながら企画を詰めていってほしいと思います。次回の発表会はこれからの新庄市にとって有意義なものになるに違いありません。期待しています！